

第5回 調査の実施，倫理的配慮

■調査の実施

偏りのない被験者からデータを収集するように心がける（無作為抽出）

被験者集団の特性に偏りがあると，その偏った集団についての研究になってしまい，自分の研究したいことができなくなってしまう．

ex) 中学生一般の研究をしたいなら，1つの学校や，特定の進学校だけでなく，複数の地域，学校で調査を行う．

データ収集の環境をなるべく整える．

同じような条件の下で回答してもらう．

互いの回答が干渉しないようにする．

おたがい見せっこしたり，他の人の回答をみて自分の回答を変えるようなことがあつては，データにバイアスがかかってしまう．

偏りのない条件設定（無作為割り付け）

ある1つの条件の割り付けの違いが結果の違いを生み出していると言えるように，条件の割り付け，および，被験者集団について，偏りがないようにする．

ex) 順序効果．複数のものを提示するとき，順番が固定していると，条件の効果なのか，順番の効果（慣れなど）なのか，区別がつかない場合がある．

2つの学習方法の比較．男性には従来法，女性には新法を実施下としたら，結果に差があったとしても，学習法の効果なのか，性別の効果なのか区別できない．

■倫理的配慮

- ・被験者にとって十分な説明を行い，同意を得る．
- ・調査に協力せずとも，また，途中でやめても，何ら不利益を被らないことを保証する．
- ・調査に協力すること以外の迷惑がかからないことを保証する．
- ・調査に協力するかしないかは調査協力者が自由に決める．
- ・同意がない限り，個人が分かってしまうような分析や結果の公表はしない．
- ・調査協力者にかかる負担は最小限にする．

■データの入力

同一行に同一回答者のものを，同一列に同一変数のデータを，入力する欠損値はあけておく．

変数ごとに，データの集計（度数，最大値，最小値を確認）を行うなどして，入力ミスがないかをチェックする．